

ひきこもり相談支援課の活動状況について

明石市では、ひきこもり当事者及び家族の抱える様々な要因や実情に応じた丁寧な支援をすることで、誰ひとりとして取り残さない、すべての人にやさしいまちづくりの実現に向け取り組みを進めているところです。

7月1日にひきこもりに総合的に対応する「ひきこもり相談支援課」を新設し、専門職による相談を開始しましたので、その活動状況を報告いたします。

1. ひきこもり専門相談の実施状況について(令和元年7月1日から8月30日まで)

(1) 相談件数(延べ件数)

電話相談 (専門ダイヤル等)	メール相談 (Webサイト等)	面接相談	訪問相談	合計
188	10	40	10	248

(2) 相談者の状況

① 年齢・性別(実人数)

	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70～	不明	合計
男性	4	9	7	19	6	2	2	26	75
女性	3	3	2	5	1	0	0	7	21
不明	1	0	0	0	0	0	0	8	9
合計	8	12	9	24	7	2	2	41	105

② ひきこもり期間(実人数)

1年未満	1～4年	5～9年	10～19年	20年以上	不明	合計
18	12	5	13	6	51	105

③ 相談者(実人数)

当事者	父	母	兄弟 姉妹	配偶者	他親族	一般 市民	その 他	不明	合計
40	10	29	4	2	1	5	4	10	105

④ 相談内容

- ・将来の不安（就職する自信が持てない。今後の健康面が心配。等）
- ・居場所の模索（自分にできること、自分に合った場所が見つからない等）
- ・家族関係（コミュニケーションがうまく取れない等）

(3) 対応状況

- ・ 原則として面接（訪問を含む）を実施し、ひきこもりとなった背景や本人の思いなど詳しい状況を聞く中で、今後の支援について検討します。
- ・ 面接では、生活リズムを整えたり、段階的に人との関係を広げていくなど社会参加に向けた準備について提案しています。
- ・ 庁内外の関係機関と連携し、本人の希望や能力にあわせた就労支援や、地域での居場所の情報提供などを行っています。

2. 今年度の取り組み

(1) 明石市におけるひきこもりの実態把握と課題整理

ひきこもり専門相談ダイヤル等によりひきこもり相談支援課へ寄せられた相談を元に、ひきこもったきっかけとなるできごとや、ひきこもり本人及びその家族が置かれている状態、現在直面している課題等を分析します。その結果をもとに、次年度以降に取り組むべき政策課題を検討します。

(2) 市民啓発

ひきこもりの当事者、家族を中心とする家族会と連携を図り、市民向けセミナー（全6回）を実施し、「ひきこもり」についての市民の理解を深めます。

(3) ひきこもり支援関係機関とのネットワークの構築

1人ひとりニーズも状況も異なるひきこもり相談へ適切に対応するために、市内外のひきこもり支援に関係する機関と積極的に連携し、ひきこもり相談支援ネットワークの整備に努めます。